

人権主日  
説教

## 聞くことから始まる

＜ローマの信徒への手紙 10：17＞

日本キリスト教協議会（NCCJ）大嶋果織 総幹事



（この説教は2025年6月11～13日、ソウルで行われた韓日NCC両国協議会の祭、韓国基督教長老会京東教会での水曜礼拝になされた説教である。）

今から32年前、わたしは日本キリスト教協議会（NCC）教育部で働きはじめました。ある会合でのことです。開会の聖書研究の担当は、在日大韓基督教会の女性でした。彼女が選んだテキストはダニエル書1章6～7節。次のような文章です。

「彼らの中に、ユダ族出身のダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤがいた。宦官の長は彼らに名前を与え、ダニエルをベルテシャツアル、ハナンヤをシャドラク、ミシャエルをメシャク、アザルヤをアベド・ネゴと呼んだ。」（新共同訳）

わたしはおかしいなと思いました。捕囚となったユダヤ人にバビロニア風の名前がつけられたというだけのテキストです。ここからどんな学びができるのでしょうか。

彼女は言いました。「わたしたち在日韓国朝鮮人のほとんどは二つの名前を持っています。一つは韓国朝鮮人としての本来の名前、そして、もう一つは日本風の名前です」と。「なぜでしょう。それは、民族名を使うと在日韓国朝鮮人であることがわかってしまい、ひどい差別に合うからです。日本で生きていくためには、日本人のふりをしなければならぬ。だから心ならずも民族名を隠して、日本風の名前を使うのです」。

この状況は32年後の今もたいして変わっていません。2011年の大阪市の調査では、約85%の在日コリアンが「いつも日本名」「日本名を使うことが多い」と答え、2017年の大阪府教育委員会の調査では、民族名と日本名を使用している在日韓国・朝鮮人の高校生の割合は、民族名33.3%、日本名66.7%です。

彼女は続けました。「自分の本名を名乗れない。それは尊厳を踏みにじられることです。今日のテキストは、ダニエル達がわたしたち在日コリアンと同じ状況にあったことを伝えています。わたしは彼らの痛みを、この短いテキストからひしひしと感じるのです」。

わたしは驚きました。ダニエル書の物語には、子どものころから親しんできました。彼らが燃えさかる火の中やライオンの穴に投げ込まれる度に、どんなにハラハラしたことでしょう。わたしはそこから、神さまはどんな困難に遭遇しても必ず助けてくださる方だということを学びました。でも、ダニエルたちと同じように故郷を蹂躪され、名前を奪われ、文化や習慣を否定されながら、それに抵抗して生きている人たちがすぐ隣りにいることに気づいていませんでした。

共に生きる社会を目指すためには、聞くこと、知ることが出発点だ。これが、わたしのNCCでの働きの最初に学んだことです。その後、途中ブランクがありましたが、昨年からは再びNCCで働き始めました。そして、今年4月に女性委員会が開催した聖書フォーラムで新しい気づきを与えられたのです。講師の一人が、ルカによる福音書15章の「なくした銀貨を探す

女のたとえ」を示して、このように問いました。

「みなさんは、『なくした銀貨を探す女』を神のメタファーだと考えることができますか。また、さらに18章の「不正な裁判官に訴え続けるやもめのたとえ」を取り上げて、次のように言いました。「わたしたちは、『不正な裁判官』を神さまだと考えがちですが、むしろ、『あきらめないで訴え続けるやもめ』のほうが神さまの姿ではないでしょうか」。

わたしは驚きました。確かにそうです。「なくした銀貨を探す女のたとえ」の直前には、「見失った一匹の羊のたとえ」がでてきます。一匹の羊を探し求める羊飼いのことはすぐに「神さまのことだ」と思えるのに、「なくした銀貨を探す女」ことをそう思えないのはなぜでしょうか。「不正な裁判官」のことは「神さまのことだ」と思うのに、「正義を求めて訴え続けるやもめ」のことをそう思えないのはなぜでしょうか。

それは、フォーラムの講師が指摘したように、わたしたちの中に、「神は男性である」、「神が女性であったり、やもめであったりするはずがない」という思い込みがあるからにちがいません。そこから自由にならなければ、わたしたちはイエスさまの言葉をほんとうには理解できないのでしょうか。自分の中の思い込みに気づき、そこから自由になって聖書の言葉を聞こうとすること。これがわたしのNCCでの第二の出発点になりました。

今年2025年は、日本敗戦、韓国・朝鮮「光復」から80年、日韓条約から60年という節目の年です。これほど長い年月を経ても、日本政府は過去の朝鮮植民地統治の責任から目を背けたまま、それどころか歴史を歪曲し、自己正当化を強めるばかりです。日本人として忸怩たる思いです。

しかし、わたしはあきらめません。なぜなら、神さまはあきらめないで正義を求め続けるやもめのような方であるからです。なくした銀貨をみつかるまで探し求める女のような方であるからです。危機に瀕するダニエルたちの側に立って、救いの手を差し伸べられる方だからです。そのような神さまに導かれて、わたしも正義を求めて歩んでいきたいと思います。

聞くことから始まる…。わたしは韓国のみなさま、在日のみなさまに「互いに聞きあおう」とは言えません。「聞くこと」が必要なのは、植民地主義を終わらせられない日本教会のほうだからです。みなさまには、一生懸命聞き、そこから正義の実現にむけて行動していこうとしているわたしたちをあきらめないでくださいとお願いしたいと思います。

同時に、わたしは次のように呼びかけます。家父長制社会の中で刷り込まれた思い込みや偏見から自由になって、キリストの言葉に耳を傾けていきましょう。そこから、互いに大切にしよう心を育み、平和を創り出す働きをともに担ってまいりましょう。神さまがわたしたちと共にいてくださることを信じます。



## 宣教委員会

オンラインセミナーを開催  
～KCCJ宣教120周年を迎えて～

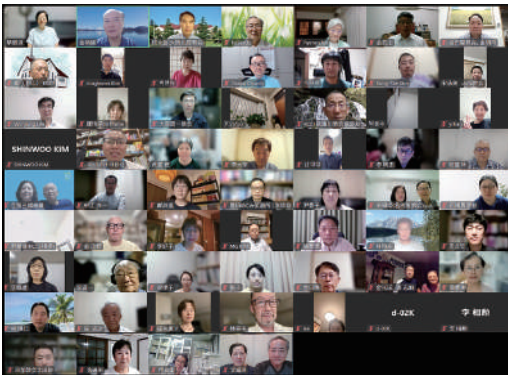
去る 7 月 28 日の夕方、7:30～9:30 頃まで宣教委員会の主催でオンラインセミナーが開催された。「KCCJ 宣教 120 周年を迎えて～その課題と未来像～」というテーマで発題と応答があった。

まず、発題講師の総幹事鄭守煥牧師は現在弱まっていく教勢の現状と今後 10 年以内に引退を控えた牧会者が 30 人、長老が 40 人に達する厳しい現実の問題を知らせた。不足している牧会者を満たすために宣教師の子どもたちの中で牧会者として人材養成をするか、宣教協約を結んでいる韓国教団との密接な連携が必須不可欠であることも述べた。また、老朽化している教会の修繕費や建築基金づくりの必要性と、日本で働く外国人労働者を受け入れ多文化共同体を作り、日本社会内でのマイノリティ共同体の架橋の役割もしなければならないと提案した。今後宣教 120 周年を迎える KCCJ は、より良い未来を迎えるために変革と変化を遂げなければならないという現実的で具体的な未来像に対する提案があった。

この発題の応答として、李明信牧師(大阪教会)と金聖泰牧師(東京教会)の発言があった。李明信牧師は、多様性の中での一致と健康なリーダーシップのための支援がなければならないという提案があった。

また、宣教師の子供として幼い頃に日本に渡ってきた経験を持つ金聖泰牧師は、KCCJ が持つユニークなアイデンティティー移民教会ではなく植民地の痛みを経験した苦しみと苦しみと共感、連帯して、共に生きる道を模索する仕えの共同体としての使命と役割を果たすことが KCCJ の未来と繋がるのではないかと言うビジョンを示した。

その後、委員長趙永哲牧師の導きによる総合討論の時間があり、様々な課題と共に解決方法を模索する有意義な時間であった。たとえ厳しい現実の中であっても今日のセミナーを切っ掛けにより明るい未来が開かれることを期待したい。参加者は牧師、信徒などを含め 77 名ほどであった。



たとえ厳しい現実の中であっても今日のセミナーを切っ掛けにより明るい未来が開かれることを期待したい。参加者は牧師、信徒などを含め 77 名ほどであった。

## 教育委員会

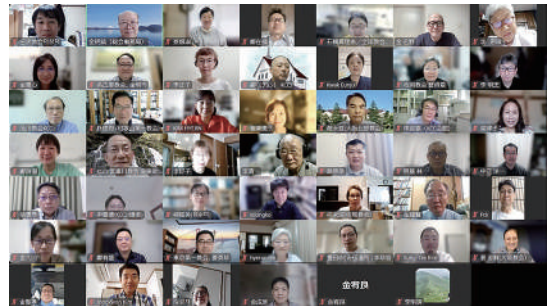
全国教役者修養会を開催  
「教会における女性の役割とは」テーマで

教育委員会主催の教役者修養会が、「教会における女性の役割とは?～エキュメニカル運動の視点から考える～」をテーマに、8 月 4 日(月)午後 1 時から zoom によってオンラインで行われた。

講師の藤原佐和子氏(明治学院大学准教授、NCCJ 書記)は、KCCJ も加盟している WCC (世界教会協議会)、WCRC (世界改革教会共同体)、NCCJ (日本キリスト教協議会)による「ジェンダー正義」の取り組みの流れを概括する中で、教会の歴史が家父長制を維持し強固なものにしてきたことを強調し、その中で女性たちが「safe space (安心できる居場所)」を求めてあげてきた声が「ジェンダー正義」だと説明された。そして、それは「女性の問題」なのではなく、女性の「神の自由な召し」を阻害することで実は「safe space (安心できる居場所)」を阻害し続けてきた男性の問題であることを指摘し、世界中でそれを克服するための「肯定的男性」が模索されていることを示した。

講演のあと、石橋真理恵伝道師(全国教会女性連合会総務)がおこなった応答では、KCCJ 内の具体的な男女牧師、長老数のデータをもとに、家父長制的な性的役割分業という強固な韓国/在日の文化によって、結果として女性が牧師・長老になる道が閉ざされてきたことが指摘された。

約 50 名の参加者はとても熱心に発題と応答に耳を傾け活発な質問がなされ、「長老を立てず教会を私物化しようとする牧師にこそ責任がある」、「女性の問題ではなく、家父長制を支える構造こそが問題」、「男性、女性という概念で把握するのではなく、個々に多様で多層な人間個人を見つめることが大事」などの貴重な意見が語られた。教役者修養会で初めて扱われたこのテーマを、KCCJ 全体で共有し続け、今後、どのようなアイデンティティを紡いでゆくのか、みな考える重要な契機になったと考える。



## 関西地方会

大韓民国解放 80 周年  
記念礼拝&講演会開催

2025 年 8 月 10 日、大阪教会にて、大韓民国解放 80 周年記念礼拝 & 講演会が関西地方会主催で開催された。

開会礼拝は書記裴貞愛牧師の司会により、ソウルの蠶室(チャムシル)教会 愛の森 子ども合唱団による特別讃美の後、地方会長の金鍾権牧師が「ダニエルの救国の祈り」(ダニエル 9: 12-19)と題してメッセージを伝え、鄭然元名誉牧師の祝祷をもって礼拝が終わった。

講演会は副会長宋南鉉牧師の司会により、講師李元重牧師(同志社大学キリスト教文化センター准教授・チャプレン)のプロフィール紹介の後、主題「光復 80 周年を迎える在日大韓基督教の過去・現在・未来 ～弱い時にこそ強い教会～」と題して講演会が開催された。講演の主な内容は以下のとおりである。

在日大韓基督教は多様性という特徴をもつ。共通使命である

韓半島の平和のための働きは、過去にも担ってきて、これからも担わなければならない。イデオロギーに左右されたのを悔い改め、自ら日本人、在日コリアン、在日の諸外国人の善い隣人となり、キリストのために満足して弱い時にこそ強いという信仰をもって、自分を捨て自分の十字架を背負ってイエスに従うことで、愛、正義、犠牲、奉仕、謙虚を実践し、日常の平和のために、日本・韓国・北朝鮮の間の平和のために働く。十字架の精神に生きるからこそ伝道ができる。

(報告:裴貞愛)





## 特別寄稿

関東大震災朝鮮人虐殺と  
日本のキリスト教

李 相 勲 牧師 (名古屋学院大学准教授)

## 1. はじめに

今から102年前の9月1日に関東地方を襲った巨大地震による建物の倒壊と地震後に発生した火災によって10万人以上もの人々の命が失われた。しかしその中には「天災」によるものだけでなく、朝鮮人・中国人・日本人社会主義者に対する虐殺行為という形の「人災」によるものも多く存在した。

本稿では、これらの「人災」のうち、「朝鮮人が徒党を組んで襲撃に来る」などの流言蜚語が飛び交う中で起こった数千名に上る朝鮮人虐殺について見るが、その虐殺の主体は、日本人民衆によって組織された自警団だけでなく、軍隊と警察であったことをまず確認しておきたい。関東大震災における朝鮮人虐殺に関しては、1960年代以降に研究成果が発表されるようになっていったが、1960年代前半においてすでに、姜徳相や松尾尊兌といった歴史学者たちによって、虐殺の主体は軍隊・警察・自警団であったことが明らかにされている。その後、研究が進む中、高校などの教科書においても朝鮮人虐殺に関する記述が登場するようになり、1990年代には、虐殺の主体が軍隊・警察・自警団であったことを明記する教科書も現れた。

このように一般の歴史学において学問的な成果が蓄積されていく中、日本のキリスト教関連の出版物においては、関東大震災時の朝鮮人虐殺に関してどのような記述がなされてきたのであろうか。本稿においては、その点について見ていきたい。具体的には、まずキリスト教系の新聞・雑誌や日本キリスト教史関連の出版物の記述について見た後、震災時に東京・横浜にあった諸教会の個教会史およびキリスト教主義学校の学校史について見ていくこととする。

## 2. キリスト教系の新聞・雑誌および日本キリスト教史関連の出版物における記述

1945年8月以前に出版されたもののうち、震災時の朝鮮人虐殺に触れたものはあまり存在しない。震災直後から10月20日まで、虐殺に関しては報道規制がかけられていたが、そのような中、日本基督教会の佐波巨牧師は、10月11日付の『福音新報』(日本基督教会の機関紙)において、虐殺自体には直接触れることはなかったが、ローマ皇帝ネロによるキリスト教徒迫害に譬えることで朝鮮人虐殺を暗に批判する文章を記している。またキリスト者の社会運動家・賀川豊彦も10月13日付の文章の中で、虐殺自体には触れない形で批判を行っている。そのほか、日本組合基督教会本郷教会(現・日本基督教団弓町本郷教会)の機関誌『新人』において山下善助(1923年12月号)と麻生久(1924年1月号)が朝鮮人虐殺を批判する文章をそれぞれ書いている。後者の文章では、日頃自分たちが朝鮮人に対して行っていた悪事への仕返しを恐れる心が虐殺発生の原因となったことが指摘されている。

1945年8月以降の記述においてはどうかであろうか。筆者が調べた範囲では、1956年刊行の久山康編『近代日本とキリスト教〔大正・昭和編〕』の中の、「関東大震災では他方で無辜の朝鮮人の虐殺や社会主義者への迫害も起り」との記述が朝鮮人虐殺に触れた最初のものであるが、1950年代まで虐殺に触れたものはほぼ存在しなかった。その後、歴史学における研究成果が発表

されるようになった1960年代以降にいくつかの重要な論考が登場する。その一つは、呉允台『日韓キリスト教交流史』(1968年)である。同書の中で呉允台牧師は、姜徳相や松尾尊兌の研究を根拠としつつ虐殺の主体は軍隊・警察・自警団であったことを指摘すると共に、植村正久や内村鑑三といった震災当時の日本キリスト教の指導者たちが虐殺に対して沈黙したことを批判した。

その後、『福音と世界』が関東大震災50周年にあたる1973年の7・8・10・11月号に朝鮮人虐殺に関する諸論考を掲載したが、その中のいくつかの論考でも、虐殺の主体は軍隊・警察・自警団であったことが指摘されている。

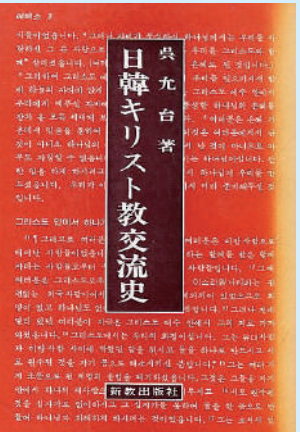
このように1960年代後半から70年代前半までの記述では、虐殺主体が軍隊・警察・自警団であったことが指摘されていたが、1980年代以降において虐殺の主体を自警団のみとする記述が定着していくことになる。例えば、1988年刊行の日本キリスト教歴史大事典編集委員会編『日本キリスト教史年表』に、「92 京浜地区に戒厳令施行、朝鮮人暴動の流言が広がり、市民は自警団を組織、朝鮮人虐殺始まる」との記述を見ることができる。虐殺の主体に関してこの記述がその後の日本のキリスト教の出版物に及ぼした影響は決して小さくはなかったと考えられる。

ちなみに、関東大震災100周年の年にあたる2023年に歴史学者の金耿昊が『福音と世界』5月号において、軍隊・警察・自警団が虐殺主体であったことに簡潔に触れているが、これまで見てきたことを踏まえれば、短くはあるが、大きな意味をもつ言及であったと言えるであろう。

## 3. 個教会史における記述

次に東京・横浜にあった諸教会の個教会史における記述について見ておきたい。筆者は、2023年までに刊行された113教会204冊の個教会史を収集・分析したが、そのうち「本文」において朝鮮人虐殺に触れているものは4教会、「年表」において触れているものは15教会であった。その中で朝鮮人虐殺に触れた最初のもは、少し微妙な表現ではあるが、その年表において「朝鮮人暴動の流言、朝鮮人迫害」と記した1979年刊行の『靈南坂教会一〇〇年史』であった。1979年以前の個教会史の記述では、震災時の「流言蜚語」などに言及したものは存在するが、虐殺自体には言及されてこなかったのである。

では、「虐殺」との用語を用いた最初のもはどれか。1988年刊行の『白金教会七十年史』が最初のものであると考えられる。その年表には、「京浜地区に戒厳令施行／朝鮮人大虐殺始まる」と記されている。いずれにしろ数は決して多くはないが、個教会史に朝鮮人虐殺に直接触れる記述が本格的に登場するのは1980年代以降であったことがわかる。なお虐殺の主体に関しては、個教会史においてそれに触れたすべてのもの(4面に続く)



呉允台『日韓キリスト教交流史』(新教出版社、1968年)



## 『広尾教会百年史』(2002年)の中の関東大震災関連の記述

一九二二年(大正十一年)、津川主一牧師が就任。その翌年(一九二三年)にマグニチュード七・二の関東大震災が起こり、教会は建物の一部を破損したものの、火災は免れた。津川牧師は神宮外苑の教護所で被災者の救援をされた。「朝鮮人が略奪、放火を繰り返している」という噂が横浜、東京へと広がり、六〇〇〇人を超える朝鮮人の殺害、襲撃事件が多発した。しかし津川牧師は、朝鮮人の方々を教会に匿うこともされ、また、教会を教護所として食料の調達や炊き出しも行なったのである。

のが自警団であったとしており、虐殺主体に軍隊・警察を挙げているものは皆無であった。

個教会史に関しては、特に日本基督教団広尾教会が2002年に刊行した『広尾教会百年史』の記述に触れておきたい。同書では、当時同教会の牧師であった津川主一が朝鮮人を教会に匿ったことに触れている。他の教会の個教会史には同様の事例があったことを示す記述は見られない。暗闇の中の一筋の光ともなる貴重な証言であると言える。津川がどのような思いで朝鮮人を救ったのかについて触れた資料は現在までのところ発見されていない。ちなみに津川主一は、米国の作曲家フォスターを日本に紹介したことでも有名な教会音楽家であった。例えば、子ども讃美歌「こどもをまねく」(作詞：中田羽後)は同氏が作曲したものである。

## 4. 学校史における記述

最後に東京・横浜にあったキリスト教主義(プロテスタント)学校の学校史における記述について触れておきたい。学校史に関しては20校92冊を分析したが、その結果明らかになったことは次の点であった。20校中7校の学校史に朝鮮人虐殺関連の記述が見られたが、そのうち虐殺について直接的に言及した最初のもは、1964年刊行の『青山学院九十年の歩み』であった。このことから、個教会史よりも比較的に早い時期から朝鮮人虐殺に関する言及がなされてきたことがわかる。

用語に関してはどうか。「虐殺」という用語を用いたのは、2000年以降に発行されたフェリス女学院・立教学院・立教女学院の学校史のみであり、その他のものは、「殺害」「殺戮」「迫害」といった用語を用いている。また虐殺の主体に自警団のほか、軍隊・警察を含めているものは皆無であった。この点は、個教会史と同様に歴史学にお

『青山学院九十年の歩み』(1969年)における関東大震災に関する記述の一部

第3章 大正・昭和の明暗

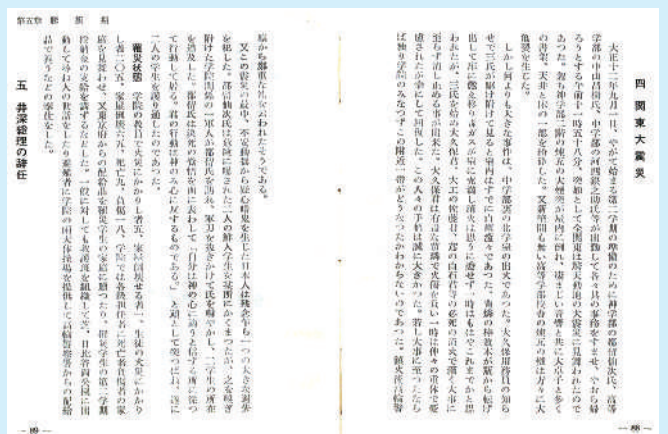
なお、ここに加えておくべきことは青山学院が行なった朝鮮人の収容・保護である。余震続き大火燃えきかり、この世の終りを思ふばかりの混乱状態の中に、大連襲撃の日から朝鮮人や社会主義者が暴動を企てて放火を行なっているという流言がとどろき、極度の不安に陥っていた市民の一部は、この正否を究めることもなく「自警団」を組織して朝鮮人を見つづけるが、青山学院は神学部を中心として、この事実無根の噂の犠牲から朝鮮人を救うことに努力した。幸いにも神学部寄宿舎は破壊を免れたので、当時在舎の学生はささく活動を止し、まず、二十四名の朝鮮人を収容し、夜は一同夜警を行ない、朝鮮人を十名を収容した。四日には青山学院教務部が組織され、さらに四十名の朝鮮人を収容したが、後にこれらの朝鮮人は千葉の収容所に移され、学院は専ら他の難民者の救助につとめ、遂に孤児の指導にもあたった。このような大震災により青山学院は、その建物、施設はほとんど失われてしまひ、いままでの施設事業計画は消滅してしまつた。

なお、青山を学院は大正十一年に渋谷代官山に約八千坪の土地を購入し、ここに校舎を新築して移転することになっており、大震災の前年(大正十一年)の三月には、その校舎の一部が落成し、続いて本館の工事に着手していったのであるが、大震災により被害を受け、落成してい

ける学問的成果は反映されてこなかったのである。

個教会史においては1教会のものにのみ朝鮮人を匿った事例が見られたが、学校史においては、青山学院・明治学院・立教学院の3校の学校史において朝鮮人を匿った事実が記されている。『立教学院百五十年史』第一巻(2023年)では4人ほどの朝鮮人学生を学校で匿ったことが記されている。

明治学院の学校史においては、当時、高等部の部長であった旧約聖書学者の都留仙次の依頼を受けて高等部教授であった神学者の中山昌樹が自宅に二名の朝鮮人学生を匿ったことや、明治学院に配属されていた軍人が軍刀を手に都留に朝鮮人学生の居場所を教えるよう迫った際に都留が「自分は神の心に適うと信ずる所に従って行動している。君の行動は神のみ心に反するものである」と述べて拒否したことが記されている。



『明治学院八十年史』(1957年)の中の関東大震災に関する記述

また青山学院の学校史では、震災による倒壊を免れた神学部の寄宿舎に100名以上の朝鮮人を収容して救ったことが記されている。ちなみに、震災当時の東京教会牧師であった呉基善や東京朝鮮YMCAの崔承萬らも震災後の一時期、この青山学院神学部の寄宿舎に身を寄せていた。また当時の神学部の学生には、1930年代に大阪や東京の教会で牧会することになる金洙喆がいた。教会よりも学校において朝鮮人を匿った事例が多いのは、朝鮮人学生と交流する機会が日常的に多かったためであろう。

## 5. 終わりに

以上に見てきたように、1960年代後半から70年代前半にかけてのいくつかを除き、個教会史・学校史・日本キリスト教史関連の出版物においては、虐待の主体として自警団にのみ言及されてきたことを見た。1978年以来、小倉教会の崔昌華牧師(1995年に召天)が中心となり、日本のキリスト者の協力も得ながら朝鮮人虐殺の国家責任を問い、国会の謝罪決議と事件の真相究明を求める集会在毎年9月1日に開催されてきた。虐殺主体から軍隊と警察を外すことは、この国家責任をあやふやにすることにつながるのではないだろうか。今後出されるキリスト教の出版物では、朝鮮人虐殺に関する歴史学の研究成果を反映した記述がなされることを願うものである。

## 韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

- B6版変型・1483ページ
- 価格：2,500円(消費税・送料込み)
- ※お求めは総会事務所へ

## 韓日対照聖書販売



各ページの左に韓国語(改革改正訳)、右に日本語(新共同訳)が掲載されています。

- A5版変型・1760ページ、革製
- 価格：4,000円(消費税・送料込)
- ※お求めは総会事務所へ